

一

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

① 言葉とは差異に根ざした表現である。

これは言語学の父と呼ばれるフェルディナン・ド・ソシュール（一八五七―一九一三）が、言葉が存在することの根本理由を明かしていくなかでたどりついた答えです。

ソシュールは、二十一歳という年齢で「インドヨーロッパ語」という壮大な体系があることを各国語の母音の分析によって解き明かした天才です。どの言語がどの時代にどう影響し合っていたかという樹形図を明らかにしていく比較言語学に於いて、ヨーロッパ言語の幹までをも見出した人です。

言語学の分野に彗星のように現れ、なおかつ言語学そのものを世界的レベルで打ち立てたこのスイス人は、続いて一般言語学にターゲットを定めました。各国の言葉の成り立ちではなく、言語そのものに対する探究を始めたのです。Ⅰ ボくら日本人は、だれかが「すずめ」と発声すればみな一応にそれぞれの頭のなかで「すずめ」を思い浮かべることが出来ます。それぞれの「すずめ」の動的イメージは違うでしょうが、まず間違いなくそれは「すずめ」であって、「めじろ」や「うぐいす」ではないはずです。

このシンプルな共有認識はいったいどういう理屈から成り立つのか？ 一言語からなる民族はなぜ言葉とイメージを共通に持てるのか？ というのが一般言語学の解き明かそうとする方向性です。その結果、ソシュールが突き止めた言葉の正体。それは、ベーシストの寿司の一件でも明らかにした、認識上の差異というものでした。

わかりやすい例をあげましょう。たとえばあなたが雪の積もった原野を旅していて、その雪面に対してなんらかの表現をこころみようとしたりした時、どんな言葉が出てくるでしょうか。思いつくところで、「白い」「冷たそう」「かたそう」「まぶしい」といったところではないでしょうか。Ⅱ、雪とともに暮らす イヌイットには、その表層の呼び方だけで幾十もの言葉があるとされています。Ⅲ 彼らは、雪質や気温や風によって微妙に変わる雪原の見え方、その区別がつくからです。

区別がつく。そこに差異がある。だから言葉が生まれるのです。

日本には、雨に対する呼び名がたくさんありますね。Ⅳ 「霧雨」「こぬか雨」「にわか雨」「五月雨」「お天気雨」「夕立」「通り雨」「ゲリラ豪雨」といったふうです。Ⅴ 雨が多く、四季に恵まれた国土だけに、ボくらはその区別がつくのです。Ⅵ だからこれだけの呼び名が生まれました。

Ⅶ、欧米ではどうでしょう。Ⅷ たとえばカリフォルニアやニューメキシコで「雨の表現はいくつありますか？」と訊いても、それはあまり意味をなさない問いになるはずです。Ⅸ せいぜいが「ヘヴィー・レイン（激しい雨）」や「シャワー（にわか雨）」といった程度。言い方はありますが、雨に対するⅩ がない土地では、その言葉数もぐっと減るのです。

③ ※ 宮沢賢治が雲をどう表現しているか。かつて、草野心平がそれをまとめたことがありました。ここですこし引用しますと、「氷河が海にはいるように白い雲のたくさんの流れは枯れた野原に注いでいる」「向うの縮れた亜鉛の雲へ」「雲はたよりないカルボン酸」「雲には白いとこも黒いとこもあってみんなぎらぎら湧いている」「白い輝雲のあちこちがきれて、あの永久の海蒼がのぞいている」「雲はみんなリチウムの赤い焰をあげる」「雲の累帯構造の継ぎ目から一切れのぞく天の青」「燃え上がる雲の銅粉」「日はいま羊毛の雲に入ろうとして」「やまなしの匂いの雲」「蛋白質の雲は遙かにたたえ」「蒼鉛色の暗い雲からみぞれはびちよびちよ沈んでくる」……ああ、もう、詩人の目にはどれだけの種類の雲が現れたのでしょうか。おそらく宮沢賢治にとっては、目にする雲はすべて違う雲であって、それは一回性の命との出会いでもありました。④ すべてに差異があり、だからこそそれぞれの形容になったのです。一般の人はいわし雲と入道雲程度の区別はついたとしても、ここまではいかなければいけません。まさに、差異がわかることが言葉を生むみなもとであるわけです。

（注） ※ ベーシストの寿司の一件……著者が入っていた日米混成のバンドのアメリカ人ベーシストが、日本で寿司を食べたとき、寿司ネタの魚に一つ一つ名前がついていることに驚き、「フィッシュ・イズ・フィッシュ（魚は魚だろ）」と言ったこと。

※ イヌイット……カナダ北部などの氷雪地帯に住む先住民族。

※ 宮沢賢治……一八九六―一九三三年。岩手県出身の詩人・童話作家。

※ 草野心平……一九〇三―一九八八年。福島県出身の詩人。

問一 この文章は以下の部分が欠落しています。この一文は本文中のⅠⅡⅢⅣⅤⅥⅦⅧⅨⅩのどこに入りますか。記号で答えなさい。
まったくもって、あちらでは雨は雨でしかありません。

（ドリアン 助川『ブチ革命 言葉の森を育てよう』一部改変）

問二 ⅠⅡⅢⅣⅤⅥⅦⅧⅨⅩに入る言葉として最も適当なものを次の中から一つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア しかし イ では ウ たとえば エ また オ なぜなら

問三 傍線部①「言葉とは差異に根ざした表現である」とありますが、どういうことですか。説明しなさい。

問四 傍線部②「言葉とは差異に根ざした表現である」とありますが、どういうことですか。説明しなさい。

問五 傍線部③「言葉とは差異に根ざした表現である」とありますが、どういうことですか。説明しなさい。

問六 傍線部④「言葉とは差異に根ざした表現である」とありますが、どういうことですか。説明しなさい。

問七 傍線部⑤「言葉とは差異に根ざした表現である」とありますが、どういうことですか。説明しなさい。

問八 傍線部⑥「言葉とは差異に根ざした表現である」とありますが、どういうことですか。説明しなさい。

問九 傍線部⑦「言葉とは差異に根ざした表現である」とありますが、どういうことですか。説明しなさい。

問十 傍線部⑧「言葉とは差異に根ざした表現である」とありますが、どういうことですか。説明しなさい。

問十一 傍線部⑨「言葉とは差異に根ざした表現である」とありますが、どういうことですか。説明しなさい。

問十二 傍線部⑩「言葉とは差異に根ざした表現である」とありますが、どういうことですか。説明しなさい。

問十三 傍線部⑪「言葉とは差異に根ざした表現である」とありますが、どういうことですか。説明しなさい。

問十四 傍線部⑫「言葉とは差異に根ざした表現である」とありますが、どういうことですか。説明しなさい。

問十五 傍線部⑬「言葉とは差異に根ざした表現である」とありますが、どういうことですか。説明しなさい。

問十六 傍線部⑭「言葉とは差異に根ざした表現である」とありますが、どういうことですか。説明しなさい。

問十七 傍線部⑮「言葉とは差異に根ざした表現である」とありますが、どういうことですか。説明しなさい。

問四 傍線部②「言語そのものに対する探究を始めたのです」とありますが、具体的にどういうことですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 一言語を使用する民族内で、言葉とイメージが変化する過程について調べたということ。
- イ 一言語を使用する民族内で、言葉とイメージが形成される規則性について調べたということ。
- ウ 一言語を使用する民族内で、言葉とイメージが結びつく理由について調べたということ。
- エ 一言語を使用する民族内で、言葉とイメージが共有される仕組みについて調べたということ。

問五 Xに入る言葉として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 細分化
- イ 愛着
- ウ 見識
- エ 活性化

問六 傍線部③「宮沢賢治が雲をどう表現しているか」とありますが、筆者はどのように表現していると言っていますか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア すべての雲について魅力的な表現をしている。
- イ すべての雲について愛情深い表現をしている。
- ウ すべての雲について異なる表現をしている。
- エ すべての雲について詩人らしい表現をしている。

問七 傍線部④「すべてに差異があり、だからこそそれぞれの形容になったのです」とありますが、どういうことですか。説明しなさい。

問八 次のア～エが本文の内容に合致していれば○、合致していなければ×を、それぞれ解答欄に記入しなさい。ただし、すべて同じ記号を答えた場合は、全問不正解とします。

- ア ソシユールは、若くして「インドヨーロッパ語」という体系を解き明かした。
- イ 同一民族内であれば、言葉と結びつくイメージは同一のものである。
- ウ イヌイットでなくとも、雪面に対してなんらかの表現をすることは可能である。
- エ 日本人は欧米人と比べて、様々な雨のイメージを持っている。

寝ころがっているのにあきて下へ行つた。キッチンへ行こうとしたが、リビングにだれか人の気配がする。さつきお昼ごはんを食べたときにはだれもいなかったのに。私は一瞬からだをかくして、そうつとドアを開けてみた。

リビングにいたのはおとうさんだった。Tシャツすがたでソファに横になり、TV画面と向かいあっていた。ソファのすぐ下にはYシャツとズボンがぬぎすてて丸めてある。おとうさん、と思わず声を出してしまうより先におとうさんが気づいて、ふりかえる。おとうさんはいやにおどろいた顔をして、

「アユコ」とつぶやいた。「今日、塾じゃなかったのか」

「塾は月、水、金だもの。今日は休みなの」

「そうか。夏休みの特別講習があるっておかあさんが言ってたから、毎日猛特訓なのかと思ってたよ。でもまさかな。毎日塾行つてたら夏休みの意味がないもんな、そうかそうか」

② おとうさんはひどくあわてた口調で言う。なんだかりビングの戸を開けてしまったことがもうしわけなく思えるほど。

「とうさんなあ、早引けしてきたんだよ。気分が悪くなって。夏ばてかな、ははは」

おとうさんは急いでTVのリモコンを押し、画面を一時停止して言う。岩に囲まれた道を走っていた電車が画面の中で動かなくなる。それで、おとうさんが観ていたのはTVではなくて何かのビデオだということがわかる。

③ それきり私たちはだまつた。おとうさんはどこか落ち着かない様子で、丸めたYシャツとズボンをたたみはじめ。私はそつときいてみた。

「だいじょうぶなの？」

「ああ平気平気。横になってたらだいぶよくなったから。帰りにビデオ借りてきたんだ。アユコもいっしょに観るか」

「なんのビデオ」

「世界じゅうの、いろんな町を走る列車のビデオだよ。ヨーロッパからアジアまで、いろんな町がうつるぞ。これがおもしろいんだよなかなか。ずうつと海沿いに走る列車もあれば、広大な野原のまん中をつきつて走る列車もある。窓から羊の群れが見えたり、崖からこげ落ちそうな細い道を進んでいたりする」

おとうさんはXしゃべった。いたずらがばれないようにいつもよりおしゃべりになる、うちのクラスの男の子みたいに。それがどうしてなのかわからないけれど、そんなおとうさんの様子を見ていたら、ことわって二階へ上がっていくのが悪いような気になった。私はうなずいて、ソファにこしかけた。おとうさんは一時停止の解除ボタンを押す。列車は煙をあげながらすすと走りだす。そのむこうには、バスクリンを流しこんだみ

たいな緑の海が広がっている。どこまでも、どこまでも。

私が新しく住む町には、海と山とハイキングコースと、びっくりするくらい広い菜の花畑があります、④ 先生のとなりで※りさは練習したみたいにしてしゃべっていた。みんな、いつか遊びにきてください。画面に次々登場する知らない場所に、りさのすがたが重なる。ぜんぜん知らない場所に行くつて、どんな気持ちなんだろう。そんなことを考えているとおとうさんがしゃべりだした。

「この電車なあ、とうさん乗ったんだ。蒸気機関車なんだ。窓を開けて顔を出していると、すぐ気持ちがいいんだけど顔じゅうすすでまっ黒になるんだ。ずうつと海沿いに走っていく。海が見えなくなるころには国境を越えてる。乗務員が車内を歩きまわって、みんなのパスポートを集めて、スタンプを押されて戻ってきたらもう列車はべつの国を走ってる。とうさんは窓ぎわでずっと外を見て、海を見てるうちにたまらなくなつて途中下車したんだ。だってあんなきれいな海で、泳いでみたいと思うだろう」

おとうさんはしゃべりつづけた。⑤ 私に、というより画面にむかつて、びっくりするほどよくしゃべった。おとうさんが結婚するまえ、あちこち旅行して歩いたという話は何度か聞いたことがある。おとうさんの部屋の本棚にあるアルバムにも、そのころの写真がたくさんあることは知っている。私の知らない町で、今よりやせているおとうさんが笑ったりポーズをつけたりしている。だけど、知らない場所のことは聞いてもよくわからないから私はいつも聞き流しているし、写真もちゃんと見たことがない。それになんだか、私はそういう話があんまり好きじゃないのだ。つまり、結婚するまえ、とか、アユコが生まれるまえ、とかいう話が。どうしてだかはわからないけれど。

テーブルの上には缶ビールが二本置いてあった。一本はつぶされていて、一本は水滴をびっしりつけていた。⑥ 町の中や山あいや、雪景色や砂漠の中を走っていく電車と、横でビールをすするおとうさんかわりばんこながめた。

いつも新聞の向こうにいるし、帰りはすぐおそいことが多くて、おとうさんと私はあんまりしゃべらない。昔はよくいっしょに遊びにいつて、いろんな話をしたような気がする。いつからこうなってしまったのか覚えていない。でも覚えていないくらい昔からだ。おとうさんはいつのまにか新聞の向こうにいたし、新聞のないところで目が合うときこちなく目をそらして話しかけたり、言葉をひねりだすようにして話しかけてくるようになった。⑦ そんなふうにされるからなおのこと、私はおとうさんと話しくくなったのだ。

(注) ※ りさ……転校することになったクラスメイト。

(角田光代『ぼくはきみのおにいさん』一部改変)

問一 傍線部①「おとうさんはいやにおどろいた顔をして」とありますが、なぜ「おどろいた顔」をしたのですか。説明しなさい。

問二 傍線部②「おとうさんはひどくあわてた口調で言う」とありますが、なぜ「あわてた口調」になったのですか。それを説明したものとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 自分が仕事から早く帰って、リビングにいたところを見られたのが気まずかったから。
- イ 自分が仕事から早く帰って、リビングにいたことの理由を説明するのに必死だから。
- ウ アユコの塾の夏休みの特別講習が思ったほど熱心ではないことに失望したから。
- エ アユコが塾の夏休みの特別講習に乗り気ではなさそうなのが気になったから。

問三 傍線部③「それきり私たちはだまった。おとうさんはどこか落ち着かない様子で、丸めたYシャツとズボンをたたみはじめる」とありますが、この描写からは「私」と「おとうさん」との間にどのような関係があると読み取れますか。それを説明したものとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 冷やかで、互いに関心を持ってない関係。
- イ ぎこちなく、緊張感の漂っている関係。
- ウ くつろいで、何でも打ち明け合える関係。
- エ 他人行儀で、互いに気遣いをし合う関係。

問四 Xに入る言葉として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア ぼつりぼつり
- イ こそこそ
- ウ もじもじ
- エ べらべら

問五 傍線部④「先生のとなりでりさは練習したみたいにしやべっていた」とありますが、アユコがその光景を思い浮かべたのはなぜですか。説明しなさい。

問六 傍線部⑤「私に、というより画面にむかって、びつくりするほどよくしゃべった」とありますが、ここでアユコが考える「おとうさん」の様子を説明したものとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 自分がその電車に乗ったときのことを思い出し、その思い出を娘に伝えようと一生懸命になっている様子。
- イ 自分がその電車に乗ったときのことを思い出し、娘の存在を半ば忘れてその思い出にひたっている様子。
- ウ それが自分も乗ったことのある電車だということを得意に思い、娘にさかんに自慢している様子。
- エ それが自分も乗ったことのある電車だということを娘に疑われまいとして、なるべく詳しく説明している様子。

問七 傍線部⑥「町の中や山あいや、雪景色や砂漠の中を走っていく電車と、横でビールをすするおとうさんをかわりばんこながめた」とありますが、この描写からは、アユコのどのような様子が読み取れますか。それを説明したものとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 電車のビデオの内容が退屈だということをおとうさんに伝えたがっている様子。
- イ 電車のビデオの内容がおもしろいということをおとうさんと共有したがつている様子。
- ウ 電車のビデオの内容とともに、おとうさんのことも気にかかっている様子。
- エ 電車のビデオの内容について、おとうさんに尋ねたいと思っている様子。

問八 傍線部⑦「そんなふうにされるからなおのこと、私はおとうさんと話しにくくなったのだ」とありますが、どういうことですか。それを説明したものとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア もともと話をしないのに加え、新聞を間に置かれて避けられると、アユコのほうから話しかけることなど到底できはしないということ。
- イ もともと話をしないのに加え、新聞が壁のようになって顔が見えないと、アユコも話しかけるきつかけをつかむことができないということ。
- ウ もともと話をしないのに加え、おとうさんがぎこちなく話しかけてくると、アユコも身構えてしまつて話せなくなるということ。
- エ もともと話をしないのに加え、おとうさんは話をしようという素振りも見せないで、アユコも話さなくてもいいかと諦めたということ。

三

次の①～⑤の傍線部のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① 相手をテキシする。
- ② インガな身の上を嘆く。
- ③ ガラスの破片がヒサンする。
- ④ 電車のウンチンを支払う。
- ⑤ 小説のスジを話す。

四

次の①～⑤の傍線部の漢字の読み方をひらがなで答えなさい。

- ① 座興に芸をする。
- ② 皮革製品を作る。
- ③ 皇后の訪問。
- ④ 全権を委ねる。
- ⑤ 用事を済ませる。

五

次の①～⑤の□に漢字を入れて、ことわざを完成させなさい。

- ① 青□に塩
- ② 怪我の□□
- ③ 弘法にも□の誤り
- ④ 同じ□のむじな
- ⑤ □□多くして船山に登る

国語解答用紙

受験番号
氏名

※

一

問一

問二

I

II

III

IV

※

問三

問四

問五

問六

※

問七

問八

ア

イ

ウ

エ

※

二

問一

問二

問三

問四

※

問五

問六

問七

問八

三

①

②

③

④

⑤

※

四

①

②

③

④

ねる

⑤

ま

※

五

①

②

③

④

⑤

※